

第3回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和6年9月26日（木）10時～15時 参加者：41名（うち市町村等から23名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

前回に引き続き、「家庭での困り感や様々な問題に対応した家庭教育支援を進めよう」というテーマのもと、今年度3回目の研修を行いました。午前は子どものネット利用に対して、午後は発達に特性のある子どもに対しての保護者支援の在り方について、それぞれの講師に専門家の立場からお話をいただきました。午前、午後ともに演習に事例検討や疑似体験などが取り入れられ、参加者にとってより具体的なケースへの対応力を高めるきっかけとなる研修となりました。

【午前の部 講話・演習】

子どもたちのインターネット利用について考える研究会事務局の **高橋 大洋** 氏が「子どもたちのネット利用に悩む保護者に伝えたいこと」と題してお話されました。保護者の困り感の背景には「デビューの低年齢化」「娯楽消費利用への偏重」「コミュニケーション利用」があり、保護者は「与え方」の部分でコントロールしながら、子どもに「周囲の助けを上手に借りる力」を身につけさせる必要があると説明しました。また、ネットに関わるトラブルの多くは「ネット以前の問題」に原因があるため、その部分で家庭教育支援に期待される役割が大きいことを強調しました。

後半の演習では、未就学児と小学生のネット利用の困りごとのケース分析を行い、グループで協議しました。そして「親も学ぶ」ことに触れ、例として「子どもと一緒にゲームしてみる」ことも大切であると説かれました。参加者は、誰もが踏み込んで考え、実践できる課題であることを実感していました。



【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・今、本当に低年齢化が進んでいて、学校生活や家庭等で様々な問題が起きているので、行政サイドで何かできないかということについて、ヒントをいただくことができました。
- ・子どもたちは早い段階からネットに触れていることを再確認しました。ネットは生活に欠かせないものなので、子どもにどう距離をとらせるのかではなく、どううまく向き合うかを教える必要があると思いました。

【午後の部 講話・演習】



能代山本特別支援教育統括コーディネーターの **加賀谷 勝** 氏に、「発達に特性のある子どもをもつ保護者への支援について」と題してお話いただきました。Part1 では、始めに「発達障害」に関連する3つの特性（LD, ADHD, ASD）の特徴について説明されました。次にこの各特性それぞれの疑似体験を行い、どのような困り感を抱いているのかを実感することにより、支援する際の配慮について参加者同士で検討しました。

Part2 では、社会の変化によって「子育てに不安を感じている保護者は約7割に上る」ため、保護者は相談できる相手が少なく、孤立感を深めている現状を示されました。そこで、面談を機能させるために、まずは「信頼関係」作りが大切であると説かれました。演習「楽しくおしゃべりしましょう」では、3つのステップによって「誤解を少なくする努力をして、100%伝える」ことを体験しました。参加者は、「笑顔」「頷く」「相づち」などの基本的な姿勢ができていて初めて自分のスタイルで伝えることが成り立つことを実感しました。最後に、保護者支援の6つの配慮点をお話しになり、家庭教育支援に携わる参加者に「保護者が答えを見つけることにつながる支援」をぜひ実現してほしいとの期待を込められました。

【午後の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・支援を必要としている児童・生徒、保護者の割合は増加傾向にあり、特性を理解することや保護者との面談で就学に向けて大切なことなど、学びが多くありました。これらを実践していきたいと思います。
- ・面談では「希望を与え、笑顔で帰ってもらう」ことを心がけていきたいと思いました。発達に特性のある子どもをもつ保護者の支援で気を付けたいこと、配慮したいことを丁寧に教えていただけて、参考になりました。